

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	人間福祉研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 各指導教員による教育方法を明確化し、その方法の適切さの検討・見直す。	→研究会、FD委員会数。	B	B	B	B	B
2. 学位授与のための教員の指導体制を充実させる。	→研究科による学位授与に関する年4回の指導。	C	C	B	B	B
3. 大学院生を対象とした授業内容や方法、シラバスに関するアンケート調査を実施し、評価する。	→大学院生に対するアンケート調査の報告書の作成。	D	C	B	B	B
4. 国内外の学術誌への投稿や学会での発表の機会を支援する。	→国内外の学術誌の投稿数および学会発表数。	B	B	A	A	A
5. 成績評価および単位認定のプロセスを透明化する。	→成績評価および単位認定の基準やプロセスの公表。	C	C	C	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 毎年年間約4回開催される学部FD活動の一環としての研究会において、各教員の教育内容・方法について発表しており、そこに大学院生も参加している。大学院諸問題検討委員会・FD委員会においてもシラバスの点検を行い、懇談を行った。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 研究会は全員参加を前提としており、毎回活発な質疑が展開されている。大学院生もテーマによるが、複数名が出席している。シラバスについては、目的と到達目標の明確化などの課題の共有化を図ることができた。教員の専門領域については、大学院案内に記載している。また講義・演習・実験・実習などにおいて相互交流を重視した授業展開が広く実施されている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 研究会は毎年継続予定である。またシラバスについては、大学院諸問題検討委員会・FD委員会において、今後も点検作業を継続していく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院諸問題検討委員会・FD委員会において、教員の指導体制強化のための議論を継続してきた。特に人間福祉研究科の学問領域の特性(理系、人文系、社会科学の混合)を踏まえた後期課程指導教員の任用基準の見直し、前期課程の中間報告会および後期課程の報告会の開催等を検討し、研究科委員会で審議・決定し、実施した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 指導体制については、後期課程は2014年度から前年より2人増加の9人に、前期課程は24名体制となり、充実が図られた。また中間報告会の開催により、副指導教員も交えた指導が活発化するなど、論文計画書の提出による指導を始め、学位授与のための指導体制の充実が図られつつある。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か これ以上は見直さない。 また、指導体制については、中間報告会への参加率を向上させるなど、更なる強化を図りたい。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 毎年大学院生を対象とした「授業評価」において、授業内容や方法、シラバスに関するアンケート調査を実施してきた。量的な結果については全教員へ、学生のコメントについては、各担当教員にフィードバックしている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 概ね授業に対する評価は高く、回収率も2013年度春学期は5割を超えるなど、向上してきている。またアンケートに記載された院生室の研究環境への改善要望については、その都度可能な限り対応してきている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 授業評価を今後も継続し、その内容については継続的に検討を加えていく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国内外の学術誌の投稿および学会発表については、各指導教員の下で、奨励・指導を行ってきた。具体的には、学内の大学院海外研究助成金による発表や、学部紀要の『Human Welfare』や、研究雑誌『人間福祉学研究』(査読付)への投稿を支援してきた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学部紀要の『Human Welfare』や、研究雑誌『人間福祉学研究』(査読付)に複数の論文が掲載されている。また、学術誌への投稿および学会発表についても、毎年随時実施されている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後とも学位取得のためのキャンディデート取得を含めて、積極的に論文投稿、学会発表を支援していく体制を継続させる。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆

目標5	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院諸問題検討委員会・FD委員会において、成績評価および単位認定のプロセスについて、履修心得の記載事項の検討やシラバスの点検を行い、透明化に向けて改善を行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 成績評価および単位認定の基準やプロセスの公表については、履修心得への掲載ならびにシラバスを通じて、プロセスを明示した。また大学院入試説明会等の機会にもそれらを活用した説明を行った。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後GPA評価を視野に、成績評価基準について共通認識のための検討を行う。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆